

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	:ゼラストアクティブパウダーLS-10F
会社名	:大洋液化ガス株式会社
住所	:東京都中央区日本橋堀留町 1-3-21
担当部門	:営業部
電話番号	:03-3667-5201
FAX 番号	:03-3667-5206
メールアドレス	:zerust.email@taiyolpg.com
緊急連絡先	:同上
受付時間	:月曜日～金曜日 9:00～17:20
推奨用途及び使用上の制限	:金属の防錆

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

#### 物理化学的危険性

記載がない場合は、区分外、分類対象外または分類できない。

#### 人健康有害性

急性毒性(経口) :飲み込むと有害 区分4

皮膚腐食性/刺激性 :皮膚刺激 区分2

眼刺激性 :強い眼刺激 区分 2A

特定標的臓器毒性、単回暴露 (気道刺激性) :呼吸器への刺激のおそれ 区分3

記載がない場合は、区分外、分類対象外または分類できない

#### ラベル要素

絵表示 : 

注意喚起語 :警告

#### 有害危険性

:飲み込むと有害

:皮膚刺激

:強い眼刺激

:呼吸器への刺激のおそれ

#### 注意書き

安全対策 :粉じんの吸入を避けること。  
:取り扱い後は手をよく洗うこと。

:この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

:屋外または換気の良い場所のみで使用すること。

:保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用すること。

#### 応急措置

:飲み込んだ場合;気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。

:皮膚に付着した場合;大量の水で洗うこと。

:特別な措置(この MSDS の 4. 応急措置を見ること)

:皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断/手当を受けること。

:汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

:眼に入った場合;水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

:眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。

:吸入した場合;空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

#### 保管

:換気の良い場所で保管すること。密閉容器に保管すること。施錠して保管すること。

#### 廃棄

:内容物/容器を国、地方自治体の規制に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物

化学名 :気化性防錆剤

成分及び含有量

CAS No.	化学名	割合	GHS 危険有害性
1863-63-4	安息香酸アンモニウム	20-45%**	急性毒性(経口) 区分 4 皮膚腐食性/刺激性 区分 2 目刺激性 区分 2A 特定標的臓器単回暴露(気道刺激性) 区分 3
532-32-1	安息香酸ナトリウム	1-15%**	眼刺激性 区分 2A

\*\*正確な割合は企業秘密のため公表出来ない。

国連分類及び国連番号 :該当しない。

PRTR 法 :該当しない。

### 4. 応急措置

#### 一般的情報

:意識の無い人の口に決して何も入れないこと。気分が悪い場合は、医師の診断を受けること(可能な場合はこの MSDS を見せる)。症状が継続する場合や、何か不安な症状がある場合は必ず医師の診断を受けること。

#### 吸入した場合

:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い場合は、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合	: すぐに洗い流し、その後石鹼と水でよく洗う。汚染された服を取り除き、付着した部分の皮膚を石鹼と水でよく洗い、次に温かいお湯で洗い流す。刺激が継続する場合は医師の診断を受ける。
目に入った場合	: 瞼を開いて大量の流水で 15 分以上洗う。痛みや、目がチカチカする場合、目が充血する等の症状が続く場合は医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	: 水で口の中をすすぐ。意識がある場合には飲み込んだものを取り除く。救急センターへ連絡すること。気分が悪い場合は医師の診断を受ける。
吸入した場合の症状	: 吸入した場合、有害のおそれ。気道への刺激のおそれ。
皮膚に付着した場合の症状	: 皮膚刺激のおそれ。
目に入った場合の症状	: 目刺激のおそれ。
飲み込んだ場合の症状	: 飲み込むと有害のおそれ。

---

## 5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末・炭酸ガス・ドライケミカル・砂・水。
使ってはならない消火剤	: 棒状の水
特有の消火方法	: スプレー/霧状の水で容器を冷やす。化学火災の際の注意に従って消火活動を行うこと。消火用の水が環境中へ流入するのを避けること。爆発のリスクを避けるため、離れた場所から消火活動を行うこと。
特有の有害危険性	: 熱による圧力の増加が、密閉容器の破裂や延焼を引き起こし、火傷や怪我のリスクを増大させるおそれがある。
消火を行う者の保護	: 呼吸装置内蔵の保護衣を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 保護具を着用する。保護具を着用していない人を漏出場所から遠ざける。粉じん/粒子を発生させないようにする。適切な換気装置を設け、粉じんの発生を最低限に抑える。裸火の禁止。禁煙。
保護具の着用	: 保護具(眼鏡・マスク・手袋)を着用し、作業する。
環境に対する注意事項	: 内容物が土壌、河川等へ流出し、汚染することを防ぐ。
回収・中和	: 粉じんの発生を最低限に抑える。掃くかシャベルで回収し、適切な容器入れること。HEPA フィルターのついた掃除機で吸引するか、湿らせた後回収する。適切な換気装置を使用する。全ての漏出物を回収し、ラベルを張った容器に入れ、地方自治体の法規に従い廃棄する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
注意事項	: 作業場所では常に排気装置を稼動すること。この製品を取扱う場合には常にゴム

製の手袋、保護眼鏡を使用すること。粉じん、浮遊粒子の形成を避け、粉じんの吸入や目への接触を避けること。この製品を使用した後、または作業場を一旦出る際は、手と顔を洗浄すること。この製品を使用する際に、飲食喫煙をしないこと。汚染された衣類は再使用前に洗濯すること。

## 保管

保管条件	: 製品は本来の製品容器に入れ、涼しく換気の良い場所で、保管する。混触危険物質と避けて保管する。使用しない時は容器を密閉する。
技術的対策	: 静電気を避けるため、適切な接地を行うこと。
混触危険製品	: 強酸・強アルカリ
混触危険物質	: 着火源・直射日光

---

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 機械的換気装置を使用すること。粉じん濃度を最低限にするため、適切な換気装置を使用すること。

### 保護具

呼吸用保護具	: 適切なマスクを着用すること。
手の保護具	: 保護手袋を着用すること。
目の保護具	: 化学用眼鏡または保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 保護服を着用すること(エプロン、つなぎ、ブーツなど)。

### 衛生対策

: 食物、飲料、幼児の食事から遠ざけること。汚れたり、汚染された衣類はすぐに取り除くこと。取扱い後には必ず手を洗うこと。目、皮膚への付着を避けること。  
使用する場所の近くに洗眼設備、シャワーを置くこと。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 白色粉末
臭い	: 独特な臭いを有する。
pH	: 該当なし。
凝固点	: 該当なし。
相対気化速度(酢酸ブチル=1)	: 該当なし。
臭気限界	: 該当なし。
融点	: 該当なし。
凝固点	: 該当なし。
沸点	: 該当なし。
引火点	: 該当なし。
自動点火温度	: 該当なし。

分解温度	:該当なし。
可燃性(個体・ガス)	:該当なし。
蒸気圧	:該当なし。
可燃性	:該当なし。
自動点火温度	:該当なし。
溶解度	:該当なし。

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	:通常環境下では安定
自己反応性・爆発性	:なし
危険有害反応可能性	
避けるべき条件	:直射日光。極端な高温と低温。熱。スパーク。加熱。裸火。
混触危険物質	:強酸。強アルカリ。
危険有害な分解生成物	:ガス。一酸化炭素。二酸化炭素。

---

## 11. 有害性情報(人についての症例、免疫学的情報を含む)

急性毒性	:飲み込むと有害。
皮膚腐食性/刺激性	:皮膚刺激を生ずるおそれがある。
眼刺激性	:目刺激を生ずるおそれがある。
呼吸器または皮膚への感作性	:データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	:データ不足のため分類できない。
発がん性	:データ不足のため分類できない。
生殖毒性	:データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	:呼吸器への刺激のおそれ。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	:データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	:データ不足のため分類できない。
吸入した場合の症状	:吸入した場合、有害のおそれ。気道への刺激のおそれ。
皮膚に付着した場合の症状	:皮膚刺激のおそれ。
目に入った場合の症状	:目刺激のおそれ。
飲み込んだ場合の症状	:飲み込むと有害のおそれ。

---

## 12. 環境影響情報

一般情報	:取扱い、廃棄を正しく行うこと。環境中に放出しないこと。
残留性・分解性	:現在のところ知見なし。
生態蓄積性	:現在のところ知見なし。

---

### 13. 廃棄上の注意

: 関連法規又は地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出しないこと。

---

### 14. 輸送上の注意

陸上輸送

消防法 : 危険物に該当しない。

海上輸送及び航空輸送

船舶安全法 : 危険物に該当しない。

航空法 : 危険物に該当しない。

注意事項 : 特になし。

---

### 15. 適用法令

消防法(危険物) : 危険物に該当しない。

水質汚濁防止法 : 該当しない。(ただし、河川等に流出させない場合に限る)

毒物劇物取締法 : 該当しない。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律: 産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)

---

### 16. その他情報

1. 製品安全データシートの作成指針 (社) 日本化学工業協会
2. PRTR調査対象物リスト(2009年度) 経済産業省HP
3. Northern Technologies International社製安全データシート
4. JIS Z 7250 化学物質等安全データシート(MSDS)

---

ここに記載した情報は信頼できるとみなされる出所から編集されたものであり、弊社の知る限りでは執筆の時点で正確なものです。本製品安全データシートにおけるデータは、ここに規定された製品にのみ関するものですが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関していかなる保証を行うものではなく、またその品質を保証するものでもありません。製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものであります。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要です。この製品が使用される環境及び条件については弊社がコントロールできない為、弊社は購入者又は第三者に対する損傷に対して、又は物的損害に対していかなる責任を負うものではありません。本MSDSの改訂版を受領した場合は、旧MSDSを廃棄下さるようお願いいたします。